

西宮渡辺心臓脳・血管センター 広田クリニック

院長 矢野 雅浩

当クリニックは2017年7月より上甲子園で西宮渡辺心臓リハビリクリニックとしてスタートし、2023年7月 西宮渡辺病院の近くである広田町医療モールに移転、名称も『西宮渡辺心臓脳・血管センター広田クリニック』と変更、リニューアルしました。

高齢化が進む中、患者様のニーズは多様化しており、急性期だけでなく回復期・維持期・慢性期において、シームレスな医療体制の構築と医療者の連携が求められています。

そのような中、当院は一般内科・循環器診療、心臓リハビリテーションを通じて、西宮渡辺病院と西宮渡辺心臓脳・血管センターとの連携を強め、患者様の継続治療、リハビリ強化や生活支援が行える新たな診療拠点を目指していきたいと考えています。

今後の展望

リニューアル後3年目に入り、おかげさまで当院では診療患者数は年々増加しております。また、高度治療を受けられた患者様においては、継続して心臓リハビリテーションを行うことで、運動耐容能向上だけでなく、疾病管理の方法も習得され、再入院回避にも寄与できるようになってきました。当院では血液検査やレントゲン検査、心電図検査に加え、心エコーやホルター心電図、ATパッチ、ABIといった循環器系の検査、さらには睡眠時無呼吸症候群の検査も行っております。今後も引き続きクリニックの成長に邁進していきたいと考えています。御指導・御鞭撻の程、どうぞよろしくお願い致します。

(矢野 雅浩)

外来診療表

		月	火	水	木	金	土
午前	9:00 - 12:00	●	●	●	●	●	● 13時まで
午後	14:00 - 17:00	●	● 15時まで	●		●	▲ (第2・4週) 14:00-17:00
	17:00 - 18:30	●				●	

西宮渡辺心臓脳・血管センター 東灘クリニック

管理者 兼 院長 山室 淳

はじめに

心血管疾患リハビリテーションは運動療法に加えて、冠危険因子の是正、患者教育およびカウンセリングなどを含む多職種による多面的・包括的な疾病管理プログラムであり、循環器疾患において様々なエビデンスをもとに、QOL改善、予後改善など有用性が実証されています。

外来通院型心臓リハビリテーションは心臓脳・血管センターを中心に、2021年11月から地域に合わせた心臓リハビリテーションを提供する拠点の一つとして神戸市東灘区に東灘クリニックを開院しました。今後は、地域性・重症度に合わせた施設での心臓リハビリテーションを展開してゆきます。

活動内容

東灘クリニックは、循環器専門医、日本心臓リハビリテーション学会認定の理学療法士、看護師が在籍し、個々の病状にあわせた心臓リハビリテーションを行っております。

心臓リハビリテーションは心不全、心筋梗塞、狭心症、心臓開心術後、大動脈解離などの大血管疾患、末梢動脈疾患の患者様が来院されています。

地域に密着した心臓リハビリテーションの取り組みの一つとして、開院当初より送迎サービスを実施しております。この送迎サービスの実施により、高齢者を中心に通院しやすい環境を整え、心臓リハビリテーションの維持に繋がっています。さらに、心臓リハビリテーションの継続は、運動のみならず食事療法、および生活面全般の指導・介入が出来、日常生活を安定して送れる患者も多くみられるようになりました。

また、心臓リハビリクリニックのみで、患者支援、指導が完結するのではなく、患者の受診タイミングを見計り、栄養士や臨床心理士、介護支援部門との連携を取りながら、さらにかかりつけ医との情報提供も適宜行い、日常生活を含めたサポート体制をスムーズに行えるシステムを構築したいです。

これら通院の利便性を高める送迎サービスの実施、多職種が協働して患者をサポートするシステム作りが再入院予防にも繋がっています。

今後の目標

コロナ禍後の社会ではありますが、心疾患を有するより多くの方に安全で安心できる心臓リハビリテーションを提供できるよう心臓脳血管センター、地域の実地医家・病院との連携を充実させ、地域全体での心臓リハビリテーションの提供に努めて参ります。

(山室 淳)

		月	火	水	木	金	土
午前 9:00~12:00	循環器内科	●	●	●	●	●	●
	糖尿病内科	●	-	●	●	●	●
	心臓リハビリ	●	●	●	●	●	●
午後 14:00~17:30	循環器内科	●	●	●	-	●	-
	糖尿病内科	-	-	-	-	●	-
	心臓リハビリ	●	●	●	-	●	-

勝呂クリニック

院長 勝呂 元彦

はじめに

勝呂クリニックの歴史について少し述べさせていただきます。

当クリニックは、私の祖父である勝呂誉が昭和3年(1928年)に開設した医院から始まり、やがて33床の病院となり、昭和26年(1951年)財団法人誉会 勝呂病院の認可を受けた。外科一般の治療、肛門関連手術も多く加療していた。当時、祖父が記載したカルテは製本し直し、大切に貴重な財産として保管している。昭和21年(1946年)私の父、勝呂隆彦が第2次世界大戦より無事復員し、勝呂病院に勤務するようになった。戦争は終わったものの周囲は焼け野原、ろくな医療器材もない状況であった。医療従事者たちは昼夜を問わず人々のために働いていた。日本社会は徐々に平和を取戻し急速に経済成長を成し遂げた。医療レベルも急速に進歩した。これと並行して医療行政も次から次へと改革されベッドの区分の開始、介護保険の導入、看護基準の見直し、ありとあらゆる改革を医療界で推し進めている。平均在院日数の削減による入院ベッドの縮小。内科開業医の在宅診療への推奨。自宅での看取りの推進。いかにして病床数を減らして医療費を削減するか。目的はこの1点である。勝呂病院は平成19年(2007年)に看護基準を満たさないために18床の有床診療所となった。平均在院日数は年々短縮し2泊3日前後、世の中のニーズに応じて日帰り手術の増加。昔と比べて手術件数は2~3倍増加するも、回転が速すぎてベッドが埋まらない。いまの医療行政には太刀打ち出来ない日々がこの数年続いた。後継者の有無には関係なく、これからの小さな医療機関は大病院の傘下に入り生きていくしかないと熟考した。

ほぼ100年続く医療機関である勝呂の名前を継続するために、今回、西宮渡辺病院グループの一員としてお世話になることになった。2025年1月に合併成立、財団法人誉会から社会医療法人渡邊高記念会へと名称が変更した。勝呂クリニックの名称は継続された。

18床のベッドは渡辺病院へ提供することになり有効活用されている。クリニックは無床診療所となり肛門外科を標榜し現在に至る。これからも従来通りの肛門疾患中心の診療を続ける所存である。

今後の目標

無理のない範囲で症例数を増やし、手術件数を増やす予定である。

近年の手術は腹腔鏡手術、ダヴィンチ手術が脚光を浴びているが、外科手術の基本である組織の剥離、切開、結紮、鉗子の把持の仕方等の手技は昔と変わらず重要である。最新の機器を使用する手術にあこがれる気持ちは理解できるが、外科手術の根本を修練する分野の一つとして肛門外科は重要と考える。

2025年度業績

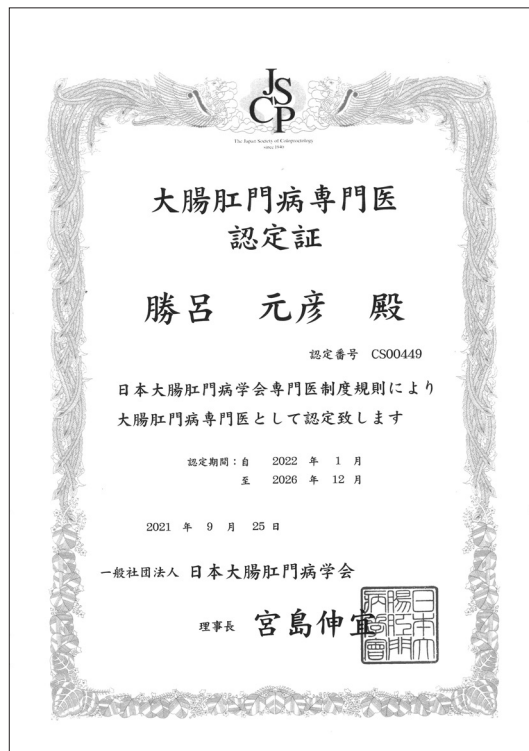
兵庫県保険医協会 健康情報テレホンサービス
2025年12月放送「妊娠中の痔疾患」

2025 年度手術実績

令和7年 外来手術件数(1/1~12/31)

術式	合計件数
出血性痔核手術(硬化療法)	77
肛門周膿瘍切開術	13
痔核血栓除去手術	10
総合計	100
ALTA	44
痔核根治術+ALTA	9
痔核根治術	49
痔瘻根治術	13
複雑痔瘻根治術	1
粘膜脱手術	2
肛門周囲粉瘤手術	1
皮下腫瘍切除術	1
裂肛根治術	4
直腸・肛門ポリープ切除	11(直腸5・肛門6)
Thiersch法	1
肛門狭窄形成手術	3
直腸粘膜脱形成術	2
臀部脂肪腫切除	1
皮下腫瘍切除	1
総合計	143

(勝呂 元彦)



クリニック